

持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD活動支援センター

ESD活動支援センター 副センター長

加藤超大



ESD活動支援センター

Education for Sustainable Development

ESD活動支援センター

ユネスコ世界会議の成果と「国連ESDの10年」で広がったESD実践者の提案を踏まえ、文部科学省及び環境省の共同事業として2016年に設置された官民協働のプラットフォーム。全国8箇所の地方センター及び地域ESD拠点、全国規模の協力組織・団体とともにESD推進ネットワークを形成し、連携してESDを支援しています。

4つの「はたらき」

① 情報の収集・発信

研修、教材、アワード、政策、助成金等の情報をウェブサイト、SNS等で提供しています。また、メールや電話等による相談にも応じています。

② 支援体制の整備

地方センターと連携し、地域の実践者のニーズに沿った支援プログラムの検討を行います。また、地域ESD拠点の形成・活動を支援します。

③ 学び合いの促進

ネットワークを育み、互いに学び合う場として「全国フォーラム」を開催します。

④ 人材の育成

実践者やコーディネーター、指導者の育成と、活動の場づくりに取り組みます。また、ユースのキャパシティ・ビルディングを支援します。

ESD推進ネットワーク全国フォーラム

ユネスコウィーク(11月25日(月)～12月1日(日))と連動して、12月1日に開催。
テーマは「気候変動 × ○○ ～点から線、線から面へのつながりづくり～」。環境教育・ESD実践動画100選の認定書授与式と合同で開催。

日時:2024年12月1日(日)10時～16時@国立オリンピック記念青少年総合センター
プログラム:

- ①環境教育・ESD実践動画100選認定書授与式
- ②基調報告(環境省及び文部科学省)
- ②ポスターセッション
- ③基調講演(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー 堅達京子氏)
- ④パネルディスカッション

モデレーター:二ノ宮リムさち氏(立教大学環境学部設置準備室教授)

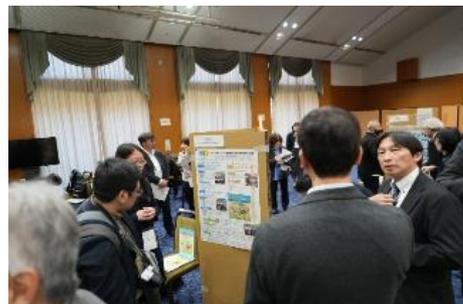
パネリスト:堅達京子氏(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー)

佐藤真久氏(東京都市大学大学院環境情報学研究科・研究教授)

高田研氏(地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)理事長)

秦さやか氏(杉並区立西田小学校 主任教諭)

加藤弘人氏(青年環境NGO Climate Youth Japan)



ESD for 2030 学びあいプロジェクト①

第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学びあいの仕組み」である「ESD for 2030学びあいプロジェクト」。各地方センターが気候変動を切り口としてテーマを設定、活動を展開しています。



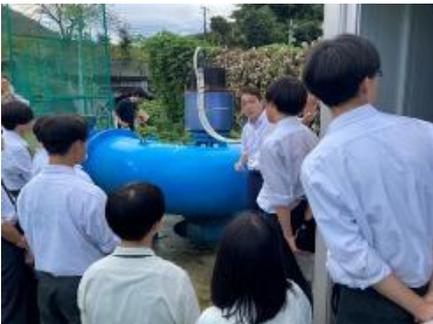
北海道センター：札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト

前年度の動物園におけるESDの可能性についての検討結果をもとに、展示動物を入り口とする生息地の変化と気候変動や私たちの生活との関わりなどを考える対話型のプログラムを試行的に複数回実施し、関係者・参加者から高い評価を得ました。今後は継続的な取組や他園館への展開へ向け、企業や団体との協働による実施体制の構築を目指します。



東北センター：市民施設における気候変動教育

宮城県仙台市の市民センター（公民館）を対象に、市民施設での気候変動教育の可能性を探るプログラムを展開しました。気候変動を切り口とした市民講座の企画のコツについて関係者の学びを深め、実際の企画・講座実施を通じて、既存講座との関連性を感じ、気候変動教育への理解が深まりました。



関東センター：気候変動じぶんごと化プロジェクト

気候変動による水害への対応策として、自立型発電に着目して2カ所の地域ESD拠点と連携しました。（一社）自然エネルギー推進機構とは、神奈川県立山北高校2年生を対象に、山が多い地域特性と小水力発電による避難所への給電を学びました。（一社）銀座環境会議とは、千葉県柏市内の障がい者通所施設の太陽光発電を題材に再生可能エネルギーへの理解を深めました。

ESD for 2030 学びあいプロジェクト②

第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学びあいの仕組み」である「ESD for 2030学びあいプロジェクト」。各地方センターが気候変動を切り口としてテーマを設定、活動を展開しています。



中部センター：SDGsワークショップ「学び合いの場の作り方」

昨年度作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を有効に活用するため、セミナーなどの「学び合いの場」を企画するワークショップを試行的に開催しました。学園祭のSDGsブースを企画する学生、デコ活の普及啓発を担当する関係者、市民教育の企画を考える自治体職員などを対象とし、試行結果を踏まえてワークショップパッケージを作成しています。



近畿センター：学校と地域の連携に必要なことは？

教員や教育委員会、自治体環境部局を対象に、気候変動を切り口とした学校と地域の連携事例について学び合い、来年度以降の活動計画案を作成しました。取組の事例紹介をきっかけに現場の状況を踏まえた意見交換では、学校と地域の両者にとってWin-Winの関係を構築することが重要といった具体的なポイントを抽出することができました。



中国センター：脱炭素ロードブックの継続・水平展開

昨年度に鳥取県北栄町で実施した脱炭素ロードブック制作プロジェクトの成果物(冊子)を活用した継続展開として、「ほくえい未来トーク2024」を共催して、脱炭素地域づくりの担い手育成や再エネ・省エネの推進に役立てました。また、これらのノウハウを中国地方に水平展開するために、島根県・岡山県・山口県の関係機関と意見交換を行いました。

ESD for 2030 学びあいプロジェクト③

第2期ESD国内実施計画に位置付けられた「テーマ別の学びあいの仕組み」である「ESD for 2030学びあいプロジェクト」。各地方センターが気候変動を切り口としてテーマを設定、活動を展開しています。

四国センター：四国ESDバーチャル大学

地域イベントや環境白書、ジオパークなどの様々な切り口からESDに触れる機会を提供し、意見交換を通して行動変容、社会変容につながるアイデアを共有することができました。多様な主体との連携によって、様々な分野の学びを気候変動教育と結びつけ、それぞれの特色を生かした気候変動教育、ESDプログラムづくりの素地が作られました。

九州センター：気候変動教育推進に向けた環境学習施設ネットワーク形成

持続可能な社会づくりにつながる基本的な学びの場である公設型の環境学習施設をネットワーク化することで、気候変動教育の推進を目指しました。施設職員による教材活用研修(@タカミヤ環境ミュージアム)や地域企業の巻き込み、専門家との連携形成に向けた意見交換(@かごしま環境未来館)を通して、ウェルビーイングにつながる気候変動教育に向けた相互参照が進展しました。



環境教育等促進法の基本方針の変更(2024年5月閣議決定)

2023年度に環境教育等推進専門家会議を計6回開催。それを踏まえて、環境教育等促進法の基本方針について変更しました。

【主な変更点】

- 環境教育の目的として、気候変動等の危機に対応するため、個人の意識や行動変容と組織や社会経済システムの変革を連動的に支援すること。
- 環境教育において特に重視すべき方法として、これまで重視してきた体験活動に加えて、多様な主体同士の対話と協働を通じた学びやICTを活用した学びの実践を、学校、地域、企業等の様々な場で推進すること。
- 学校内外での対話と協働による学びの推進に向けた、学校と地域・団体・企業等をつなぐ中間支援機能の充実による、学校の教職員の負担軽減と教育の質向上の両立を図ること。
- これらを推進する具体的な方策の一つとして、中間支援組織の強化等を掲げ、その足掛かりとしてESD活動支援センターや地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)及び地方環境パートナーシップオフィス(EPO)等の既存の中間支援組織の活用を図ること。

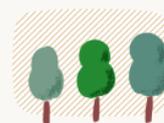
学校におけるESD活動支援センターの活用例

- 環境問題をテーマとした探究学習の内容・構成に関する相談の受付や実践支援
- 環境分野に取り組む企業やNPO等の外部講師の紹介
- 外部講師を活用した効果的な授業の構成に関する相談の受付
- 児童生徒の成果発表や多様な立場・世代の人たちとの学び合いの機会の確保
- 教職員等を対象にした環境教育、ESDに関する研修等の紹介
- 環境教育、ESDに関する教材・プログラムの紹介



環境教育・ESD実践動画100選

現場で環境教育・ESDを実践する方々のヒントになるよう、環境教育・ESDの実践の優良事例の動画を「環境教育・ESD 実践動画100選」として選定し、優良事例のショーケースとして広く発信することを目的に2023年度から開始。2024年度は36件の選定。



環境教育・ESD 実践動画 100選

子どもを対象とした
SDGsや環境教育、ESDの
3分間の実践動画を
選定しました！



～始めよう！ 広げよう！ 学びの取組～



私たちが取り組んできたこと②



光合成能力をはかる装置→

植物の光合成能力を調べる実験を行い



地元ラーメン店との商品開発



アグリ研究班考案！

地元伊那谷産メンマ「いなちく」



竹林整備で生まれた竹を加工！

ラーメン ふたつ矢



45分×2コマ授業。今日の授業で学んだ知識を「探究」とだけの情報から持参したPCや教科書・資料集を駆使。その場でラフタイムに集まった4〜5人4組は、自由な発想や常識知識から、問題を捉えたり、視点を差えたりしながら探究を深め、問題点と解決に向けた提案を検討した。